

2010年2月1日

# 安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097  
 ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/apcenter/awa/>  
 発行:安房農林振興センター地域振興部改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会

## いま注目の新野菜。栽培してみませんか

安房地域を代表する冬の野菜といえば、食用ナバナ、レタスなどがありますが、最近ではこれらの品目に加えて新しい西洋野菜が注目を集めています。今回は当地域で栽培が増えつつある「スティックセニョール」と「ブチヴェール」をご紹介します。

### スティックセニョール

「ブロッコリー」と中国野菜の「カイラン」を交配してつくられた、茎ブロッコリーの新品種です。(写真1)

### 特徴

普通のブロッコリーは頂花蕾を収穫しますが、茎ブロッコリーは次々と発生する側花蕾を収穫します。

茎が柔らかく、甘みが強いのが特徴です。ブロッコリーとは異なる風味の美味しい野菜です。

### 栽培のポイント

安房地域では9、10月に苗

を定植し、12月頃から3月まで収穫する作型が一般的です。収穫期間が長いいため、栽培中は肥料を切らさないようにこまめに追肥を行います。



写真1 スティックセニョール

### ブチヴェール

青汁の原料になる「ケール」と「芽キャベツ」を交配してつくられた新野菜です。(写真2)

### 特徴

茎にできるわき芽(これをブチヴェールと呼びます)を収穫します。芽キャベツが結球するのに対し、ブチヴェール

は結球しません。甘みがあり、苦味やクセの無い味です。加熱しても鮮やかな緑色で、目にも楽しい野菜です。

### 栽培のポイント

8月下旬から9月上旬に苗を定植し、12月から3月まで収穫できます。種の販売はないため、すべて苗を購入する必要があります。

草丈が80cm程度になるので、支柱を立てるなど防風対策をします。

両品目の栽培方法など詳細は農林振興センターにお問い合わせください。(入倉敏広)



写真2 ブチヴェール

## 水稻栽培のポイント 自然でおいしい安房の米

1人当りの米年間消費量は平成19年には、約61kgと昭和30年代の半分近くとなり、米余りの状態が続いています。この厳しい条件下で実需者に選ばれる米になるためには、他の米と違った魅力が必要で、今回は安房米の良い点について紹介します。

1. 環境にやさしくおいしい  
①安房地域特有の重粘土壌は非常に肥沃です。このため、「コシヒカリ」では元肥窒素施用量が1.5〜2.0kg/10aと少量です。化学肥料使用量が少ない点から環境にやさしい米作りといえます。  
②9月初め、「コシヒカリ」の刈り取りピークの時期には、しばしば秋の雨が降ります。土がぬかるみ粘りつく水田で倒伏した稲を刈り取る作業は、極めて困難になります。この

ため、稲を倒さないようにできるだけ少ない施肥量で栽培します。窒素施肥量を少なくすることで、食味を落とす原因となるタンパク質含量を低く抑えておいしいお米ができるのです。

③温暖な気候に恵まれ4月中旬から植え付けられた「コシヒカリ」は、梅雨明け頃に出穂します。出穂後は、真夏の太陽に守られ「いもち病」の進展が抑えられます。このため水稻の最も重要な病気である「いもち病」による被害が毎年少なく、平均防除回数も0〜1回と農薬使用回数が少なくなります。

2. これからはPR  
味が良いことだけが強調されてきましたが、考えてみると環境にもやさしい安房の「コシヒカリ」。強みをPRし、販売していきましよう。

(椎木千晴)



## シイタケ栽培のポイント

### 植菌直後の管理

シイタケは、コナラやマテバシイ(トウジイ)などの原木が手に入れば、どなたでも手軽に栽培できます。原木に種駒を植菌した後は害菌の被害を受けやすいので、次の点に注意しましょう。

### 1. 植菌から4月までの管理

①植菌は遅くとも3月末までに行います。害菌は暖かくなると活動を始めますので、その前にシイタケ菌を原木内に成長させ、害菌の侵入する余地を無くしておきます。

②植菌後は、枕木を敷いた上に50cm程度の高さに写真のように横積みにし、わらやビニールで覆います(これを「仮伏せ」と言います)。この時期は、まだ気温が低く空気も乾燥しているので、保温と保湿を図る必要があります。③直射日光の当たらない場所に置きます。春先の日差しは

強いので、日光の当たった部分は高温になり、その部分のシイタケ菌は弱り害菌の影響を受けやすくなります。

### 2. 5月以降の管理

①5〜6月ごろまでには木を立てて林内に並べます(「本伏せ」と言います)。マテバシイの場合は乾きやすいので、低めに伏せ込むか、又は横積みそのまま置いておきます。

②場所は、ちらちらと木漏れ日の差し込むような風通しの良い林の中が最適ですが、無ければ、遮光率90%程度の遮光ネットで作った日陰なども利用できます。(今関達治)



写真 横積みにして仮伏せ(暖かい日はビニールをめくって蒸れを防ぎます。)

### 落葉果樹のせん定の考え方

柿・梅・ブルーベリーなどの落葉果樹は、寒さに当たることによって葉から養分を根・枝・幹に移すことにより落葉します。したがって、落葉果樹のせん定は葉が落葉してから実施することが望ましいです。

梅では11月頃、他の落葉果樹は1〜3月頃となります。

落葉果樹はせん定を実施することで勢いのよい充実した枝が伸長します。しかし、せん定を実施しないと日の当たる場所にしか枝が伸長しないため樹冠が大きくなり、内部が枯れ枝ばかりになってしまいます。

落葉果樹の種類によってせん定の時期や方法は変わってきますが、基本的には不要な枝を抜くことが重要です。

例えば、梅は今年伸長した枝（長果枝）に短果枝がつき、来春花が咲きます。長果枝を

出させるためには、主枝に光が入ることが大切です。そのため毎年安定して収穫するためには、樹全体の日当たりをよくして様々なところから枝を伸ばすことが重要となります。

一方、ぶどう・キウイフルーツは今年伸長した枝に花が咲きます。そのため、せん定を実施しないと、翌年今年伸長した枝からまた結果枝が伸長して樹全体に成り枝が出来てしまい作業性が悪くなります。そのため、このような果樹は毎年結果枝の元でせん定し、同じ場所に結果枝を伸ばすことが重要となります。

今回は全体的なせん定の考え方を記載しましたが、各果樹におけるせん定方法は次号以降で連載していきます。

(影山浩司)

### そろまめの支柱栽培

そろまめは旬の野菜として根強い人気があります。手間をかけて、3粒入りの大莢を作りましょう。

#### 1. 定植と摘芯

本葉2枚、株間60cm、条間150cm程度で定植し、本葉5枚で摘芯して分けつを促します。

#### 2. 分けつ枝摘除と土入れ

2〜3月の晴天日に、生育の良い分けつ枝を6本程残し、芯止まりの枝を含め他は摘除します。その後株の中心部に鋏で5cm程土をかけて無効分けつ枝の発生を抑えます。

#### 3. 支柱立てと誘引

150cm間隔に、160cm程の長さの竹支柱を立てます。

地際から30、60、90、120cm前後に横テープを張り、テープナーテープ等で分けつ枝を誘引します。株元まで光線が当たることで、大莢になります。

#### 4. ピンチ

最下の着莢節位から数えておおよそ12節目でピンチします。

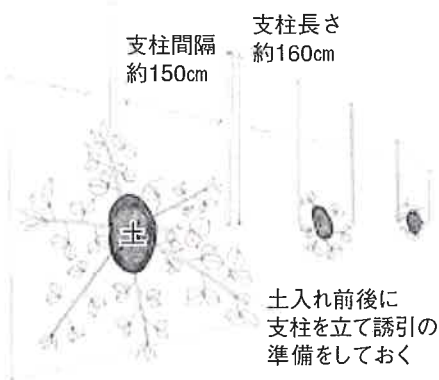
#### 5. 収穫

収穫適期はさやがやや下垂し、豆のオハグロがやや黄色になったころです。鮮度が落ちやすいので予冷処理が有効です。

#### 6. 今後の展望

連作すると病気が多くなり、草勢も悪くなります。水田のブロッコローテーションでの輪作団地化、観光そろまめ狩りなども考えられます。

(齊藤陽子)



新しく認証された

指導農業者・農業者の紹介

指導農業者とは地域農業のリーダーとして青年農業者育成に尽力される方を、農業者は地域農業の推進者として活躍される青年農業者を知事が認証する制度です。

指導農業者

○鈴木光雄さん（館山市）

観光いちご狩り経営を行っています。いち早くいちご狩り経営を取り入れた方で、現在でも集客力に優れ安定した経営を行っています。

また、地域農業の活性化をめざし、体験受入や新品目の導入などさまざまな取り組みをおこなっています。

農業者

○庄司学さん（南房総市）

酪農専業経営で、牛群検定①を利用して技術改善に取り組む、高乳量生産を達成しています。所属する酪農協青年部やヘルパー組合では構成員

からの信頼も厚く役員について活躍しています。

○水野圭一さん（南房総市）

酪農専業経営で、自給飼料基盤を確保しながら経営を維持発展させています。また、牛群検定を利用して長命連産をめざしています。所属する酪農協青年部の部長を務めたほか、地域の農業後継者で組織する地域振興組織でも会長を務めるなど要職を歴任しています。

①毎月1回検定員の立会いの下、乳量等個体毎のデータを記録し、その結果を飼養管理・牛の淘汰に役立てるものです。

（浅野清一郎・影山浩司）



写真 左から庄司さん（農業者）、鈴木さん（指導農業者）、水野さん（農業者）

お知らせ

鴨川の在来枝豆

「鴨川七里®」を初出荷

「鴨川七里®」は、鴨川市で昔から栽培され「香りが七里広がる」と言われてきた幻の枝豆です。昨年度鴨川市の農家で結成された「鴨川七里を育てる会」が初出荷を行い販売店から好評を得ました。

食用なばなA品規格 徹底の取組

出荷物の品質向上を目指し、部会と当センターで連携し作成したA品規格の目安写真が、今年度から検査で活用されています。東の形、蕾の大きさや色、花咲に注意しましょう。



女性起業グループによる 安房うんめくもん会発足

女性起業家グループ有志による「安房うんめくもん会」が昨年発足し、房州の加工品等をうんめくもんフェアで紹介しています。

西岬のひまわりが文化の日 千葉県功労者表彰を受賞

昨年度JA安房花卉部西岬支部研究会ひまわり部門（吉田正部会長）が本県の発展に大きく貢献したことを認められ、知事から表彰されました。

就農希望者を対象に 金盞花セミナー

南房総市白浜地域作り協議会主催で昨年9月に開講しました。横浜市や千葉市などから15名が参加し、当センター職員と地元農家の指導で栽培体験を行っています。